

平成 30 年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
あべ まさき 阿部 正樹	株式会社 IBC 岩手放送 元取締役会長	長年にわたり、放送局に勤務し、自らが先頭に立ち広く県民がテレビやラジオを通じて、身近に文化芸術に触れる機会を提供するとともに、自らも脚本家（上田次郎）として活躍するなど本県の文化芸術振興に多大な貢献をした。
いしだ ひろこ 石田 紘子	深沢紅子野の花美術館 前館長	宮澤賢治センターの副代表を歴任し、宮澤賢治研究に深く関わり山梨県との民間交流に尽力した。平成 21 年 6 月から、深沢紅子野の花美術館の第 4 代館長に就任。地域に根差した美術館の運営に努め、深沢紅子の美術作品の価値を多くの県民に広めるなど、岩手県の文化芸術振興に大きく貢献した。
かざわこうこのはな 深沢紅子野の花美術館	-	市民運動により、平成 8 年に開館して以来、長年にわたり深沢省三、紅子夫妻の描いた作品を展示するとともに、年間 4 回の企画展を開催してきたほか、顕彰活動も行いながら、県民から愛される美術館運営を行い、本県の文化芸術振興に多大な貢献をした。
すがわら しょうじ 菅原 正二	ジャズ喫茶「ベイシー」 経営者	ジャズ喫茶「ベイシー」を開店し、長年にわたるジャズ喫茶の営業を通じて、県民にジャズに触れる機会を提供するとともに、世界的ビッグバンドであるカウント・ベイシー・オーケストラ等の来県公演に尽力するなど、本県の文化芸術振興に多大な貢献をした。
もりかわ ともゆき 森川 健志 はなだ けいこ 花田 慶子	ライブ・レストラン & パブ「アンサンブル」 経営者	「アンサンブル」を開店し、東京以北で唯一、バンドネオン、ヴァイオリン、ピアノでの生演奏が毎晩聴けるレストランとして営業を続け、県民にタンゴ等の生演奏に触れる機会を提供してきたほか、被災地での日本の叙事歌演奏による被災者を励ます活動をはじめ、中学校の音楽鑑賞教室でのタンゴ演奏、社会福祉法人いきいき牧場でのボランティア演奏、NHK ラジオにおける南米文化の紹介を行うなど、本県の文化芸術振興に多大な貢献をした。

令和元年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
黒沼 亮介 くろぬま りょうすけ	株式会社盛岡 Club Change 代表取締役社長	長年にわたるライブハウス「Club Change」の経営を通じて、高校生や地元のミュージシャンに活動の場を提供し、支援してきたほか、「いしがきミュージックフェスティバル」を立ち上げ、運営に尽力するなど、本県の音楽文化の振興に大きく貢献した。
小暮 信人 こぐれ のぶひと	南部興行株式会社 代表取締役社長	長年にわたる映画館経営を通じて県民が身近に映画に触れる機会を提供し続けるとともに、「みちのく国際ミステリー映画祭」や「もりおか映画祭」の開催を通じて、映画の街づくりに尽力するなど、本県の映画文化の発展に大きく貢献した。
道又 力 みちまた つとむ	日本脚本家連盟 脚本家	著書「文學の國いわて」において岩手の文学の歴史を体系的に取りまとめたほか、盛岡文士劇など地域に根差した脚本や著書を数多く執筆するなど、岩手の文学界の発展に大きく貢献した。
るんびにい 美術館	-	平成 19 年から、知的な障がいのある作者をはじめ多彩な芸術作品に触れながら命の平等を感じる場「るんびにい美術館」を開館し、創作活動を介して障がいの垣根を超えた交流の機会を提供するとともに、その作品を広く県内外に紹介するなど、芸術を通じて障がいのある人もない人も互いに隣人として大切にしあう社会の構築に大きく貢献した。

令和2年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
いわてフィルハーモニー・オーケストラ	-	東日本大震災津波後、被災地からの支援要請を受けて組織され、オーケストラ鑑賞教室を開催し、県北沿岸被災地域の子供たちや被災者2,500名に演奏を届けた。また文化庁「文化芸術体験事業」・文部科学省「復興教育支援事業」、復興支援チャリティ公演など岩手県初のプロ集団として活動を展開し、岩手県民会館等にて定期演奏会を開催するなど、広く県民に親しまれ、管弦楽の普及に大きく貢献している。
MORIOKA第一画廊	-	1964年に開廊した、現代美術における県内で最も歴史ある画廊として、多年にわたり県民が美術に親しめる「場」を提供し、文化芸術の裾野の拡大に貢献した。（令和2年11月閉廊）
山崎 文子	山崎文子 デザインオフィス (グラフィック・デザイナー)	1988年の冬季五輪盛岡招致ポスター、1993年のアルペンスキーワールドカップ盛岡・零石大会の公式デザインや、数多くの岩手県内の企業のデザイン等も手掛けているほか、震災後は、持ち前のデザイン力を生かして防災紙芝居を制作するなど、なりわいを通じて岩手のイメージ形成、文化創造に大きく貢献している。

令和3年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
二宮 栄子 にのみや とうこ	染色工房 格主宰	日本をはじめ各国で「染色絵画」の個展の開催や、「服飾と染めの調和」をテーマとしたファッションを発表するなどの創作活動に取り組んでおり、ヴィヴィッドな色彩とダイナミックなデザインが世界的に評価を得ている。
遠野物語ファンタジー制作委員会 とおのものがたり	-	現代における市民劇として県内最古の団体であり、昭和51年の第1回公演以降、柳田國男の「遠野物語」や佐々木喜善の「聴耳草紙」など、地域にゆかりの口承民話を題材として拾い上げ、上演することにより、遠野の知名度の向上に大きく貢献している。 市民と行政との共同で、演劇のみならず、自作のオリジナル音楽の生演奏、バレエ、民俗芸能を盛り込んだ総合創作舞台などの機会を創出し、文化芸術の裾野の拡大に貢献している。
萬代館 ばんだいかん ・ 映画館「萬代館」利活用事業実行委員会	-	明治42年に人形芝居小屋として創業し、大正時代に映画上映を始めて以降、長きにわたり映画館として営業を続け、今もなお、昭和30年代の映画ブームを伝える県内唯一の現役映画館として、「カシオペア映画祭」を開催するなど、なりわいを通じて岩手の映画文化の発展に大きく貢献している。

令和4年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
零石郷土芸能伝承活動 ほそかわかい 細川会	-	40年を超える長きにわたる郷土芸能の保存・伝承活動を通じて、子どもの育成に尽力するとともに、郷土芸能を基にした創作民謡民舞の制作に積極的に取り組み、「チャグチャグ馬コ」や「さんさ田植えくずし」が全国的に高い評価を得ているほか、国内外に岩手県の魅力を広く発信するなど、本県の文化芸術振興に多大な貢献をした。
てるい 照井 けん顕	ジャズ喫茶 「開運橋のジョニー」 経営者	昭和50年に陸前高田市に“日本で唯一の和ジャズ専門店”として「ジャズ喫茶ジョニー」を開店し、世界的ジャズピアニストの穠吉敏子の招聘を始め、ライブ興行を積極的に展開した。 平成13年には盛岡市内で新たに「開運橋ジョニー」を開店し、内陸部においてもジャズ喫茶文化の発展に寄与した。また、盛岡バスセンター内に開設した「穠吉敏子ジャズミュージアム」にあっては、運営NPO法人理事長を務めるなど、岩手県においてジャズ文化にふれられる「場」の提供に貢献している。
さいとう 斎藤 じゅん純	作家 街もりおか（編集長） 岩手町立石神の丘美術館（芸術監督）	職業作家として多数の作品を発表する一方、創刊から50年を超えるタウン誌「街もりおか」の編集長を平成20年から14年以上務め、盛岡市の文化情報の発信・発展に大きく寄与するとともに、平成21年からは、石神の丘美術館の芸術監督としても活動を行い、岩手県の文芸、芸術文化の発展に大きく貢献している。

令和5年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
にしへ 西部 邦彦	Jazz Bar 「すぺいん俱楽部」 (オーナー)	音楽活動を行う傍ら、昭和47年に盛岡市に「西班牙館（すぺいんやかた）」を創業。現店名「Jazz Bar すぺいん俱楽部」として、これまでに国内外一流ミュージシャンのLIVEを多い時には年間約100公演実施し、ホームページにおいてLIVE情報を発信するなど、長年にわたり岩手の音楽文化の牽引役としてその発展に貢献している。
てるい 照井 由紀子	「ジャズタイムジヨニー」 経営者	昭和50年に陸前高田市に「ジャズタイムジョニー」を開店し、ジャンルを問わないライブ興行イベントを積極的に展開した。 平成23年の東日本大震災津波により店舗が流失したものの、同年8月には仮設店舗により営業を再開、県内外から支援が寄せられる中、営業を継続し、令和3年に本設営業を開始する。 長年、地域の文化サロン的な役割を果たしてきたほか、震災後は被災者の心の拠りどころとなる「場」を提供し、震災からの復興にも大きく貢献している。
ごしょこ 御所湖 かわむらびじゅつかん 川村美術館	-	平成7年に零石町に開館し、国内でも珍しい東欧絵画や彫刻を中心とした常設展示や年4回の企画展の開催のほか、移動美術館として所蔵作品の貸し出しを行うなど、県民の身近な場所で普段はなかなか目にする機会のない珍しい、優れた作品に触れる「場」を提供し、文化芸術の裾野の拡大に貢献している。
かぶしきがいしゃあづまや 株式会社東家	-	盛岡のそば屋が持ち回りで開催していた「そば屋寄席」の60回以上の長きにわたる開催について中心的役割を担い、落語の鑑賞機会を広く提供している。 令和5年には、ニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52か所」の盛岡市の紹介記事で同店が取り上げられ、ニューヨークにおけるわんこそば大会のほか、盛岡市での初の世界大会や二戸市での第1回フードダイバーシティわんこそば国際大会などを通じて、世界に向けても積極的に岩手の食文化であるわんこそばを発信している。

令和6年度いわて暮らしの文化特別知事表彰受賞者

受賞者	役職（所属）	功績の内容
齋藤 哲子 さいとう てつこ	一関国際交流協会 初代会長	<p>一関国際交流協会会长として国際交流事業及び外国人支援事業に尽力したほか、北上川リバーカルチャーアソシエーションを通じて、エジプトのナイル川と北上川との姉妹提携を結ぶなど、河川を軸とした国際文化交流に取り組み、多年にわたり本県の国際的な文化交流・文化芸術の推進に貢献した。</p> <p>また、東日本大震災津波からの早期復興を祈願する「中尊寺レクイエムコンサート」の開催に携わり、ウィーンフィルメンバーによるコンサートを契機とした世界一流の演奏家と子どもたちとの交流機会の創出に貢献した。</p>
喫茶ママ きっさママ	-	<p>喫茶店文化が根付く盛岡市において、昭和7年の開店以降90年以上営業を続ける、最も長い歴史のある喫茶店と言われている。</p> <p>本県出身の彫刻家や画家などが集うサロンや、店内において絵画展を開催するギャラリー喫茶として、創作に取り組む県民の貴重な発表・鑑賞の「場」の提供に貢献している。</p>
塩釜馬具店 しおがまばぐてん	-	<p>大正11年に創業し、農耕馬や馬車の馬具製造のほか、伝統行事「チャグチャグ馬コ」に使用する装束の製造・修理・販売を通じて、本県の馬事文化を長きにわたり支えている。</p> <p>また、馬具製造で培った技術を活かして生活に密着した様々な革製品を製造しており、山に入る際に熊よけとして使用する熊鈴は、手づくりの頑丈なつくりと美しい音色で、県内外から支持を集めている。</p>